



名大トピックス

No.112 平成14年10月15日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

第 期名古屋大学運営諮問会議第 1 回会合を開催



CONTENTS

第 期名古屋大学運営諮問会議第 1 回会合を開催..... 2	国家公務員 種試験第一次合格者への
教育学部がサマー・スクールを開催..... 3	職務内容等説明会を開催..... 7
理学研究科で岡崎高校スーパーサイエンスハイスクール	技術職員研修(全体研修)「装置開発」・「電子・情報」
特別課外活動を実施..... 4	・「生物」を開催..... 8
第 3 回テクノフロンティアセミナー開催..... 5	テクノ・フェア名大 '2002' 「工学を拓く
工学部で「テクノサイエンスセミナー」を開催..... 6	新たな産学官連携の芽を創出」開催のお知らせ..... 9
第13回日本数学コンクールを開催..... 7	本学関係の新聞記事掲載一覧(14年 8 月分)..... 10



第 期名古屋大学運営諮問会議 第 1 回会合を開催

第 期名古屋大学運営諮問会議の第 1 回会合が、8 月 7 日に開催されました。

会議では、松尾総長から、運営諮問会議の趣旨等の説明、10名の委員並びに大学関係者の紹介の後、会長に大崎仁委員（国立学校財務センター所長）、副会長に岡崎恒子委員（藤田保健衛生大学総合医科学研究所教授）がそれぞれ選出されました。

次いで、大崎会長の議事進行の下、松尾総長から、第 期運営諮問会議答申についての取り組みや大学の現状について説明がありました。

引き続き、松尾総長から、諮問事項「国立大学法人化に向けた「新しい名古屋大学像」について」の説明、奥野総長特別補佐から、法人化に向けた大学の検討状況についての説明があり、活発な意見交換が行われました。

委員（五十音順、敬称略）

会長

大崎 仁 国立学校財務センター所長

副会長

岡崎 恒子 藤田保健衛生大学総合医科学研究所教授

金子 元久 東京大学大学総合教育研究センター教授

川北 稔 大阪大学附属図書館長

柴田 昌治 日本ガイシ株式会社代表取締役会長

清水 哲太 トヨタ自動車株式会社取締役副社長

曾我 直弘 独立行政法人産業技術総合研究所理事

原 和宏 愛知県立半田高等学校長

（愛知県公立高等学校長会副会長）

松原 武久 名古屋市長

若子 敦弘 前 東北エニコム株式会社代表取締役社長



あいさつする大崎仁会長



教育学部がサマー・スクールを開催

教育学部は、8月2日から8月4日までの3日間、高校2年生を対象に「高校生のためのサマー・スクール」を開催し、東海3県から44名が参加しました。

このサマー・スクールでは、単に大学の授業を聴講するのではなく、教官及び大学院生による指導・助言体制の下で少人数のコースに分かれ、大学で行われる様々な形の教育・学習活動を体験するとともに、サマー・スクール終了後も自主的な研究活動に取り組んでもらうために開催されたものです。このスクールに参加することで、高校生が同学部での教育内容としての教育学や心理学について一定の知識を得られるとともに、自らの適性を知り、自信をもった進路選択が可能になることが期待され、また、大学としては、この活動を通じて高大接続の改善のための基礎資料を得ることを目的としています。

初日の開講式、オリエンテーションの後、4つのコース（1コース「外国の学校について知ろう - 学校を手

がかりとした国際理解 - 」、2コース「学ぶ立場から教える立場へ - 人間形成の場としての授業 - 」、3コース「観るということ - 心理学的なものの見方 - 」、4コース「人の行動を考える」)にクラス分けし、各コースごとに教官1人、大学院生2人が付き、教官から講義を受けた後、大学院生の指導、助言を得ながら演習を行いました。最終日にはお互いに和気あいあいとなつて、参加者同士でも議論が進むようにまでなり、好評を得て終了しました。サマー・スクール終了後も、高校生達は各自で夏休み中の研究課題に挑戦し、その期間も教官や大学院生によるサポートが行われました。

各コースの参加者からは、教育学や心理学について「理解が深まった」「もっと勉強してみたい」等の感想が多く寄せられ、高大接続を考える一つのモデルを示唆しています。



留学生から説明を受ける参加者



修了証を手に記念撮影



理学研究科で岡崎高校スーパーサイエンス ハイスクール特別課外活動を実施

理学研究科は、8月5日から7日までの3日間、愛知県立岡崎高等学校スーパーサイエンスハイスクール特別課外活動を実施しました。

文部科学省では、平成14年度から科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校を研究開発学校（スーパーサイエンスハイスクール）に指定し、大学等との効果的な連携により、自然科学の将来を担う有為な人材の育成を図ることを目的とした事業の一環であり、この研究開発校に指定された愛知県立岡崎高等学校からの協力依頼により実施されたものです。今回の特別課外活動には、3年生の生徒36名と同研究科の教官9名及びティーチングアシスタントとして大学院生15名

が参加しました。

開講式では、山下研究科長から受講生に対し、大学の講義や実習を受ける心構えと激励のあいさつが行われ、その後、化学が「色素や錯体等の合成実験」、物理が「世界を覗く光と電気の基礎実験」、生物が「遺伝子組換えによる生物発光を利用した生物時計の仕組み」をテーマに講義及び実験を行い、より高度な学問分野について興味・関心を持たせるとともに、高いレベルの学習に取り組みせることにより独創性を育てる指導を行いました。

今後、多くの生徒が専門分野への興味・関心を育ててくれることが期待されます。



開講の挨拶をする山下理学研究科長



興味深く講義を聴く高校生



熱心に実験に取り組む高校生



第3回テクノフロンティアセミナー開催 - 工学の面白さと重要さを啓蒙するために -

工学部は、8月5日から7日までの3日間、テクノフロンティアセミナーを開催し、主に愛知県内の12高校から高校生26名が参加しました。

このセミナーは、若い人の理工系離れが指摘されている近年の状況を深刻に受け止め、高校生を対象に、より社会との関わりが強い工学について啓蒙することを目的に、電子・情報分野の最先端の研究を実験を通じて工学の面白さを体験するとともに、大学進学を控えた参加者に、大学の工学部とはどんなところかを体験し、興味を深めてもらい、今後の進路決定に大いに参考にしてもらうために毎年実施されているものです。また、参加者全員がユースホステルに宿泊し、新しい仲間との交流を図り、食堂等の大学施設を使用し、大学生活の一端を経験できることも特徴のひとつになっています。

セミナーの初日には、平田富夫 工学研究科教授(実行委員長)からのあいさつ、実験担当者及び参加者からの自己紹介及び今後のスケジュールについての説明が行われた後、参加者は実験テーマ別に6つのグルー

プに分かれ、それぞれ同研究科の教職員や大学院生のアドバイスの下で実験が精力的に行われました。

2日目は、電気電子・情報工学科の5つの研究室を見学し、最終日には、実験結果を各グループごとにまとめ成果が発表された後、参加者全員に修了証書が授与されました。

今回の実験テーマは、次のとおりです。

- (A) 超音波センサを用いた自走ロボットコントロール
～迷路を進むロボットを作ろう～
- (B) 極低温と超電導の世界を操る
～超電導線への大電流通電～
- (C) 音を光に変える
～光ファイバによる音声多重伝送～
- (D) レーザって何? ～レーザの中身と使い道
- (E) ロボットのしくみを理解する
～書道ロボットを作ろう～
- (F) ソフト電卓を作ってみよう
～ウインドウプログラムとツールによる計算式の解析～



2日目：末永研究室を見学する参加者達



実験風景：超音波センサを用いた自走ロボットコントロール～迷路を進むロボットを作ろう～



工学部で「テクノサイエンスセミナー」を開催 「持続可能な社会基盤確立を目指して」 - 守る技術への取り組み -

工学部は8月8日、工学部3号館において、「テクノサイエンスセミナー」を東海地方の高校生を対象に開催しました。同セミナーは、大学で行っている最先端の研究に触れ、研究者と交流する中で何かを感じてもらい、工学に対して新たな興味を持ってもらうことを目的に、平成8年度から毎年テーマを変えて開催し好評を得ているもので、本年度は、「持続可能な社会基盤確立を目指して - 守る技術への取り組み -」をテーマに社会資本工学コースの教官が担当しました。

当日は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県から、高等学校の教員3名を含む16名が参加し、午前中は、構造物の破壊・劣化をその事象のタイムスパンごとに、衝突、地震、疲労、腐食の4つに分類し、その現象ご

とに本学で研究されているトピックスとその背景についてのセミナーが行われました。午後には、セミナーのテーマに基づいて、耐震実験、疲労試験、地震観測、環境促進実験の各実験施設を見学した後、「東山トンネルウォーク」と題して、名古屋市交通局、名古屋高速道路公社の協力により、本学周辺で工事が行われている2つのトンネルを見学しました。最初に、名古屋市営地下鉄4号線、名古屋大学駅の工事現場において、地下20mにある駅のプラットフォームやシールドトンネルを見学し、その後、バスで移動し、名古屋高速道路東山トンネルの新池坑口から緑橋換気所までの約1kmを歩き、緑橋換気所で工事説明を受けて日程を終えました。



疲労実験の見学風景



名古屋高速道路東山トンネルを見学する参加者



第13回日本数学コンクールを開催

本学では、過去12年間にわたり「数学を作っていく楽しさ」を中・高校生に知ってもらうために、愛知、岐阜及び三重の高校教諭の協力を得て、副総長を委員長に「日本数学コンクール委員会」を設置し、数学コンクール及びジュニア数学コンクールを開催してきましたが、本年度も、8月17日に「第13回日本数学コンクール及び第6回ジュニア日本数学コンクール」を名古屋大学、三重県及び大阪市を会場に開催しました。

参加者は東海三県を初めに、埼玉県、滋賀県、福井県等まで広がり、小学生20人が加わるなど約400人でした。会場では、参加の小・中・高校生が手作りの曲面やサイコロと格闘して鉛筆を走らせるなど熱心に取り組んでいました。日本数学コンクール委員会としては、今後も社会貢献の一貫として中・高校生を対象に数学のもつ魅力を知ってもらうためにコンクールを引き続き開催する予定です。

なお、優秀な生徒に対する表彰と問題の講評を11月23日(祝)に名古屋大学シンポジオンで開催します。



国家公務員 種試験第一次合格者への職務内容等説明会を開催

8月9日、シンポジオンホールにおいて、国家公務員 種採用試験第一次合格者に対する本学の職務内容等についての説明会が開催されました。

この説明会は、国家公務員を志望し就職活動を行っている人を対象に、文部科学行政を含め、大学の使命、業務内容等をより深く理解してもらうために例年行われているものです。

説明会は、白石人事課長のあいさつ、本学の教育・研究活動、管理運営等の概要紹介の後、採用後従事することとなる具体的な職務内容等について、詳細に説明が行われました。

当日は、連日の猛暑の中、昨年を上回る250名の参加者があり、それぞれ真剣に説明に聞き入っていました。

また、より詳しく本学の業務内容等を照会するための官庁訪問についても、一次合格発表の翌日である8月3日から8月20日の期間受け付け、期間中延べ390名の一次合格者が訪れました。官庁訪問は、人事担当者からより具体的な説明を行うとともに参加者からの質問に答える方式で行われ、法人化に向けた大学の取組等について、それぞれ熱心に質問を行いメモをとる姿が見受けられました。





技術職員研修（全体研修）「装置開発」・ 「電子・情報」・「生物」を開催

平成14年度名古屋大学技術職員研修（全体研修）が、豊田講堂において8月5日から7日までの3日間実施されました。

この研修は、本学の技術職員に対し、その職務に必要な専門的知識及び技術を習得させ、技術職員の資質の向上と応用能力の開発及び養成を図ることを目的として、昭和59年度から5年程度を一つのサイクルとして実施されているもので、今年度は「装置開発」「電子・情報」「生物」の3コース合同で18名が参加しました。

研修では、関総務部長のあいさつ及び今井人事課職員掛長による「公務員倫理について」、和田肇 法学研究科教授による「法人格取得」の一般講義の他に、工藤博章 情報メディア教育センター助教授による

「ネットワーク・セキュリティ」、那須民江 医学系研究科教授による「有機溶剤の体内動態と毒性発現機構」、篠田剛 工学研究科助教授による「接合技術」、中本剛 同研究科助教授による「マイクロ加工」、千田進幸 工学部・工学研究科技術専門職員による「特殊加工・インクリメンタル・フォーミング」等の専門講義が行われました。

また、施設見学では、民間会社の「航空機の製造工程」を見学し、「技術発表」においては、4月から7月までの4ヶ月間に各テーマに基づき研究した事例の発表を行いました。

猛暑の中の研修ではありましたが、研修生にとって大変有意義な研修の機会となりました。



講義の様様



「法人格取得」の講義に真剣に耳を傾ける受講生及び聴講生

INFORMATION

テクノ・フェア名大‘2002’ 「工学を拓く 新たな産学官連携の芽を創出」開催のお知らせ

名古屋大学工学部・工学研究科及び関連研究科・センターは、地域産業界との密接な交流を図り、大学の研究成果の活用を通じて、新規産業の創出や既存産業の技術の高度化を推進する機会を設け、より一層の「産学官連携」を推進していくことを目的として、大学にあるシーズ（種）の展示や研究室の見学及び講演会を開催することとなりましたので、産業界等からの多数の参加をお待ちしております。

なお、詳細は、ホームページ〔<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp>〕をご覧ください。

- | | |
|-------|--|
| 名 称 | テクノ・フェア名大‘2002’
「工学を拓く 新たな産学官連携の芽を創出」 |
| 主 催 者 | 名古屋大学工学部・工学研究科及び関連研究科・センター |
| 開 催 日 | 平成14年11月29日（金） |
| 場 所 | 名古屋大学豊田講堂
名古屋大学シンポジオンホール
（住所：名古屋市千種区不老町） |
| 参 加 費 | 無 料 |
| 開催概要 | 10：00～17：00 研究活動総合展示会（入場無料）
産学官連携相談窓口 |
| | 10：30～10：45 後藤 俊夫 工学研究科長
「名古屋大学工学研究科の産学官連携の取り組み」 |
| | 10：45～11：30 小林 猛 工学研究科 生物機能工学専攻 教授
「Heat Immunotherapy の臨床応用をめざして」 |
| | 11：30～12：15 毛利佳年雄 工学研究科 電気工学専攻 教授
「アモルファスワイヤ高感度マイクロ磁気センサー（MIIC）が拓くミリガウス情報の世界」 |

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（14年8月分）

	記事	月日	新聞等名
1	こう見る：産業と観光 魅力ある街に磨け 奥野信宏学長特別補佐	8.1(木)	中日(朝刊)
2	野依良治教授のオンリーワンに生きて - 17 - 英語磨けば個性輝く	8.1(木)	読売(朝刊)
3	真剣な国民的議論を 環境学研究科・柳下正治教授	8.1(木)	読売(朝刊)
4	コーナーキック：電話のむこう 教育発達科学研究科・森田美弥子教授	8.2(金)	中日(夕刊)
5	愛知教育大の運営諮問会議が初会合 教員養成単科大に 再編統合について名古屋大らを相手とする4案に絞って協議を進めていると報告	8.3(土)	中日(夕刊)
6	改革の道：「すき間」開拓 眠る技術を生かせ 眼科医療機器メーカー、ニデックの小沢社長の熱意にほだされた工学研究科・八木助手は名大を退職し、昨年8月に設立された同社の視覚研究所の所長に就任、人工眼の開発を本格的にスタート	8.3(土)	読売(朝刊)
7	「中等教育の国際比較」と題したシンポジウムが6月20日に開催され受験競争やカリキュラム改革などの課題で意見交換	8.4(日)	朝日(朝刊)
8	中部の人脈：文化勲章の木村資生さんら 研究者を多数輩出	8.4(日)	読売(朝刊)
9	友よ 岡崎高校：小3まで出来の悪い子 塩害に強い稲で猿橋賞 生命農学研究科・高倍鉄子教授	8.4(日)	読売(朝刊)
10	教員養成学部 国立大の再編 愛教大、定員確保窮す 協議可能性は名大のみ	8.5(月)	朝日(朝刊)
11	論文の引用回数より 研究は「質」で判断を 野依名大教授講演 科学者評価法に苦言	8.6(火)	中日(朝刊)
12	きらり：ボート世界大会 初の決勝進出を 経済学部1年の奥村麻友さん	8.6(火)	中日(朝刊)
13	東海3県の知事と議長に聞く：法学部(行政学)・後房雄教授 民主主義に必要な試行過程	8.7(水)	朝日(朝刊)
14	機動性生かした病院に 早川哲夫・名城病院長(名大名誉教授)	8.7(水)	読売(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
15	野依良治教授のオンリーワンに生きて - 18 - 日本に帰らぬ科学者	8.8(木)	読売(朝刊)
16	1968年 名大のアフガン調査隊 幻の記録映像 34年ぶり上映	8.9(金)	中日(夕刊)
17	東海地震など大規模災害に備え、名古屋市の情報技術(IT)ベンチャー企業や名古屋大などの産学協同グループが、インターネットを利用した外国人向けの情報提供システムの構築に乗り出す	8.10(土)	中日(朝刊)
18	訃報：元経済学部長・滝沢菊太郎教授 12日食道がんのため逝去	8.13(火)	中日(朝刊) 他3社
19	刈谷商工会議所は本学と共同で、シニア世代の活力を生かして商店街の活性化を図る「いきいき刈谷プロジェクト」を発足した 本学が商店街活性化のために行う産学協同プロジェクトは、岐阜市に次いで2例目	8.14(水)	読売(朝刊)
20	戦時下に自由な研究あった 「五中の科学班」冊子完成 高橋昭名誉教授ら「混迷する教育現場の指針に」	8.14(水)	中日(朝刊)
21	野依良治教授のオンリーワンに生きて - 19 - リーダーよ、紳士淑女たれ	8.15(木)	読売(朝刊)
22	紀伊半島沖 未知の断層確認 地震火山観測研究センター・安藤雅孝教授 「海水突き上げ大きな津波に」	8.16(土)	朝日(朝刊)
23	日本脳神経外科全国野球大会で医学部チーム野球部が連続優勝	8.17(日)	中日(朝刊)
24	暑さ、難問、脳から汗? 数学コンクールに400人挑戦	8.17(日)	中日(夕刊) 他2社
25	中国の水害 留学生らの募金活動 総額78万3093円に 子どもたちの学費を援助	8.18(月)	中日(朝刊)
26	きらり：毎朝3時起き 好きなゴルフ 工学部2年・竹内秀樹	8.20(火)	中日(朝刊)
27	9月12日～10月31日まで8回 国際開発研究科公開講座案内	8.20(火)	中日(朝刊)
28	8月22日～9月17日まで8回 公開講座開催案内	8.20(火)	中日(朝刊)
29	多元数理学研究科二年の青木真一さん パズル連続日本一 来月、世界選手権に出場へ	8.21(水)	読売(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
30	地震対策学ぼう 来月17日にセミナー 講師は環境学研究科・安藤雅孝教授など	8 21(水)	中日(朝刊)
31	水害募金78万円 陝西省の子らに本学の中国人留学生会	8 21(水)	読売(朝刊)
32	老年学：来るべき不安におびえ 大学院老年科・井口昭久教授	8 21(水)	朝日(朝刊)
33	名大病院 医療過誤で死亡 「詳細な原因究明」病院長会見	8 21(水)	読売(朝刊) 他5社
34	野依良治教授のオンリーワンに生きて - 20 - 個人と社会 国と世界	8 22(木)	読売(朝刊)
35	名大手術ミス 「患者の味方」事故調に 愛大教授・弁護士 加藤氏を起用	8 22(木)	中日(夕刊)
36	医学の現場から：尿酸を調節する分子 注目される長寿との関連 痛風など治療薬開発に期待 名大病院予防医療部大学院生の榎本篤さん	8 23(金)	中日(朝刊)
37	同時多発テロからまもなく1年 国際関係への影響を考える 名大大学院が来月から講座	8 23(金)	朝日(朝刊)
38	若い夏 インターンシップ 記者へ...思い熱く	8 24(土)	中日(朝刊)
39	「名大サロン」開設 来月から 将来は学外開放 垣根越えた語らい	8 24(土)	中日(夕刊)
40	「年には勝てぬ...40回で幕」 バンカラ学生「最後の勇姿」 東海寮 歌祭	8 25(日)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
41	科学をよむ：複雑系にみる「科学的証明」欧州大洪水と地球温暖化 理学研究科・池内了教授	8 26(月)	朝日(夕刊)
42	「親子で楽しむスポーツ講座」開催案内	8 27(火)	中日(朝刊)
43	文部科学省人事(9月1日)大学 評価・学位授与機構長に理学研究科・郷通子教授	8 28(水)	毎日(朝刊)
44	医療相談：医学部第二外科・船橋啓臣講師が読者の相談に答える	8 28(水)	読売(朝刊)
45	医療相談：名古屋共立病院リウマチ・人工関節センター長の岩田久名誉教授が読者の相談に答える	8 28(水)	読売(朝刊)
46	文部科学省の概算要求に、ノーベル賞を受賞した野依良治教授がトップを務める「物質科学国際研究センター」に外国から客員教授を2人招く予算が盛り込まれた	8 30(木)	中日(朝刊)
47	芸文センター 10年 座談会(上) 人間情報学研究科・茂登山清文助教授ら	8 30(木)	朝日(夕刊)
48	コーナーキック：インターンシップ 教育発達科学研究科・金井篤子助教授	8 30(木)	中日(夕刊)
49	教訓 肝に命じ 高まる防災への意識 重要な常日ごろの心構えと地震の正しい知識を 地震火山観測研究センター・安藤雅孝教授	8 31(金)	毎日(朝刊)

お詫びと訂正

名大トピックス No.111 (平成14年9月13日発行) 表紙「CONTENTS」の記事に誤りがありました。『工学概論第1「がんばれ先輩!」』の表記を、『工学概論第1「がんばれ後輩!」』と訂正させていただきます。慎んでお詫びします。

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052(789)2016

FAX：052(789)2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ちよっと名大史

名古屋県仮医学校・仮病院跡

名古屋大学の源流は、医学部の前身となっている1871年8月開設の名古屋県仮医学校・仮病院にまで遡ります。仮医学校は、名古屋城の南外堀のほぼ中央に架かる本町橋の南東にあった旧名古屋藩の評定所跡地に、仮病院もその西側、本町通りを挟んで向かい側にあった、同じく旧名古屋藩の名古屋町奉行所跡地に設けられました。

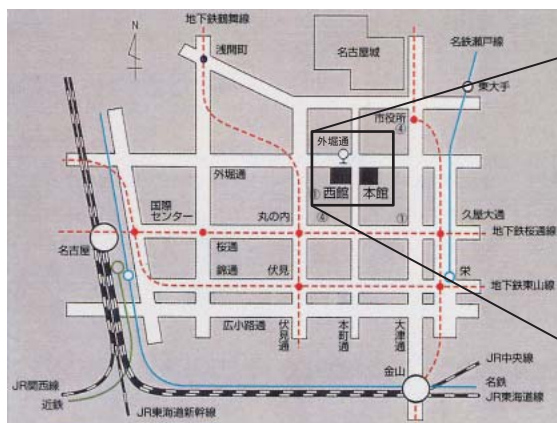
開国前後にコレラなど、諸外国からもたらされたと思われる伝染病が頻繁に発生し、その対策医療が明治新政府の重要な政策課題のひとつとなっていました。名古屋城 = 名古屋県庁の南すぐ近く、旧評定所・旧町奉行所という旧藩政の重要な行政機関の跡地に、仮医学校・仮病院が設置されたことは、いかに明治新政府 = 名古屋県が医療政策を重要視していたかということをおもうかがわせませす。

仮病院は半年後の翌年2月にいったん廃止され、仮医学校の方も同年8月の学制変革により廃校に及んだとされています。しかしこれは名古屋県の行政改革上の一時措置であつたらしく、同年8月には仮医学校職員らの有志により「義病院」の名称で同じ場所で再開されました。ただこの義病院は財政難から、翌1873年2月にはまたもや閉院になったとされています。

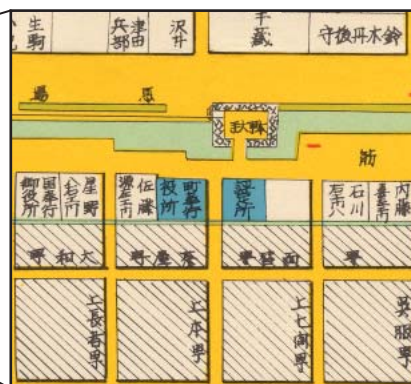
現在は、仮医学校跡地が愛知県産業貿易館本館（名古屋市中区丸の内三丁目）に、仮病院跡地が同会館西館（同丸の内二丁目）になっています。



愛知県産業貿易館



所在地



当時の街並

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物に関する情報をお持ちでしたら、
大学史資料室（052-789-2046）へご連絡下さい。